

令和元年度 若松原中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

（1）基本目標

人間尊重の精神を基盤として、知・徳・体の調和のとれた高い知識と豊かな心を持ち、たくましい人間を育成する。

（2）具体目標（目指す生徒像）

- ① 自ら学ぶ生徒
- ② 心豊かな生徒
- ③ たくましい生徒
- ④ 視野の広い生徒

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

テーマ 「主体的に学力を高め、心を耕し、心身を鍛える生徒の育成」

知識基盤社会の時代といわれる 21 世紀を生きる人間にとって、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視した「生きる力」を育むことは、ますます重要である。そのため、歴史と伝統及び良き校風を大切に繋げ、発展させ、人間尊重の教育を推進し、未来を切り拓く意欲や豊かな創造性の育成に努め、創意ある教育課程を編成して、生徒自らが主体的に学力を高め、奉仕と思いやりの心を育て、心身を鍛えることで、教育目標を達成させるようにする。

また、生徒が生き生きと主体的に取り組む教育活動の実践のため、学業指導の充実、学校園及び学区内の小中学校との連携や協同の充実、学校の公開や情報の発信、家庭・地域・企業との連携や協同の充実などを意図的・計画的な学校経営を行うことで、保護者・地域住民から信頼される学校づくりをする。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- （1） 学業指導の充実を図ることで、確かな学力、豊かな心、健康・体力を育む。
- （2） 基本的な学習習慣や態度を身に付けさせ、分かる授業を通して確かな学力を育成する。
- （3） 自己肯定感・自己有用感を育み、生命尊重と他人を思いやる心を持った生徒を育成する。
- （4） 基本的な生活習慣の確立・集団規律の遵守を通して、規範意識の向上を図る。
- （5） 教職員自らが課題意識を持ちながら、教育の専門家としての自負を持って研鑽に励む。
- （6） 学校の公開や情報の発信（HP、各種たより等）を積極的に行うことで、家庭、地域、関係機関等との連携を強化する。
- （7） ○小中一貫教育の充実、地域学校園の連携や協同を積極的に行うことで、児童生徒が発達段階に応じた一貫性のある教育を継続的に実践する。

[若松原地域（WGS）学校園教育ビジョン]

「つなげよう学び 育てよう心と体 共にのびよう WGS 学校園」

小学校入学から中学校卒業・進路の実現までの 9 年間の学校教育を「関わる教職員の思いと責任を共有し連携して、児童生徒のそれぞれの発達段階に応じた一貫性のある教育や指導として」継続的に実践する。

4 教育課程編成の方針

（1）調和のとれた人間性豊かな生徒の育成

各教科・道徳・特別活動・総合的な学習等の連携に努め、本校教育の中核である「主体的に学力を高め、心を耕し、心身を鍛える生徒の育成」を、教育活動全般を通して積極的に展開し、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成に努める。

（2）確かな学力の定着

全国学力・学習状況調査、とちぎっ子学習状況調査、宇都宮市学習内容定着度調査や学校評価等の結果を基に、生徒の実態や課題を把握・分析し、研究授業や授業研究会、教科部会等を通じて、教師の資質向上や情報の共有化を図り、生徒にとって「わかる、学ぶ喜びを味わえる授業」を展開し、確かな学力の定着に努める。

（3）基礎的・基本的な学習内容の定着と活用

基礎・基本的な知識・技能を確実に習得し、それらを活用して思考力・判断力・表現力等を育むことができるよう、つまづきやすい内容の洗い出しや課題を抱える生徒への決め細やかな指導に努める。また、各教科・領域間の連携・系統性を考慮し、それぞれの特性に応じた知識・技能を活用する学習活動の充実に努める。

（4）心の育成

各種ボランティア活動への積極的な参加と、教育活動全体を通して行う道徳教育の充実に努め、生徒の道徳性の育成と体育・

健康に関する指導の充実により、自他の生命の尊さを知り、心身ともに健康で活力に満ち、思いやりあふれる生徒の育成に努める。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】～自己実現（社会的自立）を図るための指導・支援の充実～

- ・「学びに向かう集団づくり」と「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」の充実
- ・主体的に判断し、行動できる生徒の育成
- ・心身の健康を把握し、自他への思いやりの心の育成

○学力向上のため、小中一貫教育の教科部会や分科会の充実

【学 習 指 導】～学びに向かう集団づくりと子どもが意欲的に取り組む授業づくり～

- ・学び合い活動を通して、コミュニケーション力の向上を推進する。

○分かる授業を展開し、生徒の学習意欲の向上を図る。

【児 童 生 徒 指 導】～自己指導能力の育成～

- ・自ら判断し、責任を持って実行できる生徒を育成するため、自己指導能力の育成・向上を図る。

○自ら課題に立ち向かい、思いやりと協同を実行し、自他共に成長できる学習集団の雰囲気を作り、学力向上の基礎・基盤となるよう推進する。

【健康（体力・保健・安全）】～心身共に健康的な生活を目指して～

- ・健康・運動・食に関する指導を通して、体力の維持や増進・食習慣や食のマナーの体得など、健康的な生活習慣づくりを推進する。

- ・自他の生命や心の健康を大切にし、知識・理解を深めて安全で豊かな生活を送れるようにする。

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項 目	評価項目	主な具体的な取組	方 向 性	評 価
目 指	A 1 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 評価項目 A 1 の 生徒の肯定的回答が 85%以上→（結果）%	・学習指導主任や教科・領域主任を中心に、本校の実態に合わせて「教えて考えさせる授業」を展開する。 ・探究型の授業や言語活動の充実を図り、生徒一人一人が主体的に取り組むような授業づくりを進める。 ・授業中における集団づくりを実践する。 ・学力の向上に向け、各教科部会の充実を図り、一人一人の能力や適性、特性、意欲の状態等の現状を把握し、個に応じた支援策を講じていく。		【達成状況】 【次年度の方針】
	A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 評価項目 A 2 A11 の 生徒の肯定的回答が 85%以上→（結果）%	・主に道徳の授業を通して、思いやりの心を育てるとともに、教育課程全体の中に実践の場を設定する。 ・福祉教育の充実を図り、障害をもった方や高齢者などへの思いやりの心を育てる。		【達成状況】 【次年度の方針】

す 生 徒 の 姿	A 3 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 評価項目 A 3 の生徒の肯定的回答が 85%以上→（結果）%	○家庭や地域に生徒の様子を理解していただくこととルールや法律を遵守する判断力と行動力が身につくように協力を要請する。 ・日常的な心の教育のさらなる充実と、教科となった道徳の時間の指導の改善を図る。 ・生活マナー等においては、学校生活のあらゆる場面でその都度指導していくとともに、家庭や地域へ協力を要請していく。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A 4 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 評価項目 A 4 の生徒の肯定的回答が 90%以上→（結果）%	・授業開始終了時の「語先後礼」のあいさつの拡大を図る。 ○地域学校園での生徒会のあいさつ運動を通して、リーダーの育成を図る。 ・PTA 及び地域協議会と連携した「あいさつ運動」や登下校指導を通して、地域との結びつきを強め、地域全体であいさつが飛び交う雰囲気作りを中学校から発信していく。また、地域社会の一員であるという自覚を持たせ、地域のために協力していく心を育てていく。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A 5 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 評価項目 A 5 A 7 の生徒の肯定的回答が 80%以上→（結果）%	・新学期の始めに目標を立てさせ、学期末に評価を行う。 ・学習や部活動、学校行事など目標をもって取り組ませ、生徒同士がお互いに励まし合いながら、より高い目標に向かって努力する態度を育てる。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A 6 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 評価項目 A 6 の生徒の肯定的回答が 80%以上→（結果）%	・保健体育委員会を中心に、昼休みの運動を呼びかける。 ・うがい、手洗いなど進んで行わせ、風邪等の予防に努めさせる。 ○地域学校園内で連携を図りながら、食育の充実を図る。 ・給食指導、学級活動等で栄養のバランスが大切であることを理解させるとともに、その実践が健康な生活につながることを継続して指導いく。 ・避難訓練や交通安全指導等で危険回避能力や判断力を養う。 ・毎月行う安全点検を教職員と生徒が一緒に行うことで、生徒の安全管理への意識づけを図る。	【達成状況】 【次年度の方針】

A 7 生徒は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 評価項目 A 5 A 7 の生徒の肯定的回答が 80%以上→（結果）%	○地域学校園内で発達段階に応じたキャリア教育を系統を立てて行う。 ・社会人から講和を聞くなどの機会を設け、働く意味を各自で考えさせる。 ・宮っこチャレンジでの体験を生かして、将来に向けた自分像を描き、目標をもって学校生活が送れるようにさせる。	【達成状況】 【次年度の方針】
A 8 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 評価項目 A 8 の生徒の肯定的回答が 80%以上→（結果）%	○小中で一貫して、英語のコミュニケーションスキルを習得させる。 ・英語の授業に生徒同士や A L T と英語を使って交流する学習を多く取り入れる。 ・修学旅行や社会体験学習等で外国人に進んでコミュニケーションをとらせるために、場に応じた会話例を指導する。	【達成状況】 【次年度の方針】
A 9 生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 評価項目 A 9 の生徒の肯定的回答が 80%以上→（結果）%	・社会科や総合的な学習の時間で地域や宇都宮の学習を行い、他市と比較しながら、宇都宮の良さを発見させる。	【達成状況】 【次年度の方針】
A 10 生徒は、I C T 機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 評価項目 A 10 A 25 の教職員の肯定的回答が 80%以上→（結果）%	・授業においてインターネット等を活用する。 ・図書館利用のガイダンスを全学年で年 1 回以上行い、生徒が学習に活用しやすいようにする。	【達成状況】 【次年度の方針】
A 11 生徒は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 評価項目 A 2 A 11 の生徒の肯定的回答が 80%以上→（結果）%	・敬老の日に行われる地域の敬老会に、生徒が積極的に参加できるよう PR を行い、高齢者に感謝やいたわりの態度を育てる。 ・道徳の授業において、高齢者への思いやりを育てる題材を取り入れる。	【達成状況】 【次年度の方針】
A 12 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 評価項目 A 12 の教職員の肯定的回答が 80%以上→（結果）%	・理科や社会、家庭科等の授業において、エネルギーや資源の問題を取り上げ、生徒たちに議論させる。 ・校内の掲示コーナーに環境問題を啓発するようなポスターやチラシを貼るなど生徒の関心が高まる環境をつくる。	【達成状況】 【次年度の方針】

	B 1 読書の習慣化を図り、心豊かな生徒を育成する。 【数値指標】 評価項目 B 1 の 生徒の肯定的回答が 80%以上→（結果）%	・学校図書館、学級文庫の整備を進めるとともに、「図書だより」や掲示物を活用して良書を積極的に紹介する。また、年間を通して計画的に朝の読書を実践する。 ・読書推進活動を強化するとともに、家庭でも読書時間の確保などの協力を仰ぎながら、読書意欲の向上につなげていきたい。	【達成状況】 【次年度の方針】
目 指 す 学 校 の 姿	A 13 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 評価項目 A 13 の 教職員の肯定的回答が 80%以上→（結果）%	・年 2 回の特別支援委員会で、特別な支援を必要とする生徒の実態の共通理解を図り、必要な手立てを考える。 ・2名の学校生活支援員と学年や担任が連携を図り、適切な支援が提供できるよう協力体制を構築する。 ・毎週行う教育相談部会において、情報交換を行い、必要に応じて外部機関との連携を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A 14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 評価項目 A 14 の 生徒の肯定的回答が 90%以上→（結果）%	・毎日の校内巡回やスタンダードダイアリーの確認、定期的な教育相談やいじめ調査等を活用し、いじめへの早期対応や早期発見・未然防止に努める。 ・学校のいじめ対策について、保護者会やホームページ、学年通信等、あらゆる機会を利用して周知していく。 ・いじめの問題は、学校、家庭、地域及び関係機関が連携して取り組むべき問題であることを機会あるごとに啓発していく。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A 15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 評価項目 A 15 の 生徒の肯定的回答が 80%以上→（結果）%	・2日休んだら家庭訪問の原則を守り、いきしぶり等の早期対応を図る。 ・教師が一人一人の生徒の個性を重んじ、個に応じた対応を行う。 ・生徒同士がお互いを認め、励まし合える学級の雰囲気作りに努める。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A 16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 評価項目 A 13 A 16 の 教職員の肯定的回答が 80%以上→（結果）%	・国際理解や異文化理解の教育の推進を図り、違った習慣や考えをもった生徒へ理解を示す態度を育てる。 ・日本とは違った思考にも寛容に対応し、生徒の実態に応じた配慮を行う。 ○地域学校園内や他区から転入学してくる外国人生徒の情報を迅速に集め、登校初日から対応できるような校内体制を作れるようにする。	【達成状況】 【次年度の方針】

A 17 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 評価項目 A 17 の生徒の肯定的回答が 85%以上→（結果）%	・居がいのある学校をめざし、学校行事等生徒が主体的に活動できる場をより多く設定し、自尊感情を育成する。 ・学校行事や生徒会活動の目標や趣旨を十分に理解させ、お互いに励まし、認める集団づくりを実践していく中で、生徒一人一人が達成感や自己肯定感を得られるよう諸活動を推進していく。	【達成状況】 【次年度の方針】
A 18 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 評価項目 A 10 A 25 の教職員の肯定的回答が 85%以上→（結果）%	○個に応じたきめ細かな指導を行い、数学科、英語科では習熟度別学習や T T など指導形態を工夫し、学力の向上を目指す。 ○授業の始めに授業のねらいや身に付けたい力を示したり、授業の最後には、振り返りを行ったりすることにより、生徒の学習活動をより活発にするための指導法の改善を図る。 ・生徒一人ひとりが意欲的に学習に取り組む、学力の向上が実感できるよう、教職員が互いに研鑽する機会を充実させ、授業改善をさらに進めていく。	【達成状況】 【次年度の方針】
A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 評価項目 A 19 の教職員の肯定的回答が 80%以上→（結果）%	・ S C や M S 、かがやきルーム指導員に週 1 回開催する教育相談部会に参加してもらい連携を図る。 ・ P T A 事務員の座席を事務室に確保し、時間的にも空間的にも連携が図れるようにする。 ・地域コーディネーターと地域連携教員の連携を密にし、信頼関係を構築しながら業務を遂行する。 ・かがやきルームを活用し、生徒への学習支援を促進する。	【達成状況】 【次年度の方針】
A 20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 評価項目 A 20 の教職員の肯定的回答が 80%以上→（結果）%	・会議のペーパーレス、保護者通知のメール配信など時間短縮を意識した業務の改善を行う。 ・校務分掌の引継ぎのデジタル化を図り、過去のデータがすぐに活用できるように整理をする。 ・ P T A 事務員の活用により P T A 役員との連絡調整や会計事務など P T A 事務の業務を縮減させる。 ・ 2 名の地域コーディネーターと連携を密にし、役員の連絡や運営についての仕事を分別し効率化を図る。 ・ P T A と地域協議会に下校指導の協力を依頼し、会議が早く始められるようにする。	【達成状況】 【次年度の方針】

A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 評価項目A21の教職員の肯定的回答が80%以上→（結果）%	・生徒会を中心に合同のあいさつ運動を行ったり、ボランティア活動で交流したりすることにより、生徒の地域学校園の一員であるという意識を高める。 ・各小・中学校の地域協議会との連携を図り、小・中学生がともに取り組むことのできる活動を探し、生徒に積極的に参加するよう呼びかけていく。 ・乗り入れ授業を通して、小学生の中学校に対するギャップの軽減を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 評価項目A22の教職員の肯定的回答が80%以上→（結果）%	・学校に隣接するコミセンを放課後の学習支援の会場とし、地域の講師が生徒に勉強を教える体制を作る。 ・地域協議会が中心となって地域の人材を募集し、図書館やバラ園などの環境整備ボランティアに参加する体制を作る。	【達成状況】 【次年度の方針】
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい生徒の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 評価項目A23の教職員と地域住民の肯定的回答がともに80%以上→（結果）%	・若松原中学校地域協議会との連携を図ることを通して、地域の教育力を学校教育活動に生かせる場を設けていく。 ・地域や企業に本校の実態についての情報を積極的に発信することなどを通して、連携を深め、1年生の「働く人に学ぶ」、2年生の「社会体験学習」において、より効果的な学習が展開できるように努力していく。	【達成状況】 【次年度の方針】
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 評価項目A24の保護者と地域住民の肯定的回答がともに80%以上→（結果）%	・施設の老朽化が進み、修繕が必要な箇所が多数あるため、生徒の安全を第一に考えながら、市教委と連絡を密にし、計画的に修繕を進めていく。 ・毎月の安全点検を生徒と一緒にし、安全な学習環境をつくるとともに、生活安全に対する関心を高める。 ・PTAと地域協議会に下校指導の協力を依頼し、地域ぐるみで交通安全指導を行う。 ・地域協議会が年2回行っている夜間巡回指導を継続して行い、危険箇所の点検や生徒の非行防止に努める。	【達成状況】 【次年度の方針】
A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 評価項目A10A25の教職員の肯定的回答が80%以上→（結果）%	・情報担当者の責任のもと、ICT機器の一括管理を行い、各教科の学習に必要なICT機器の整備を行う。 ・図書館教育担当者が授業に使える図書の希望を取り、図書の充実を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】

	B 2 生徒は、毎日朝ごはんを食べている。 【数値指標】 評価項目 B 2 の生徒の肯定的回答 90%以上→（結果）%	・朝ごはんを食べることによる学習面や生活面への効果を科学的に指導するとともに、各家庭への理解と協力を引き続きお願いしていく。 ○地域学校園としてお弁当の日を通して小学校から食への意識を高めていくことも実施する。		【達成状況】 【次年度の方針】
本校の特色・課題等	B 3 チャイムを守って授業にのぞんでいる。 【数値指標】 評価項目 B 3 の生徒の肯定的回答が 85%以上→（結果）%	・時間を守ることの大切さを教師自ら率先垂範し、生徒の意識を高めていく。 ・各クラスのリーダーを育成することを通じて、生徒自ら主体的に「5分前行動」の呼びかけを行い、共通理解を図りながら、時間を守るムードの醸成を図る。		【達成状況】 【次年度の方針】
	B 4 居がいのある学校づくりのひとつとして生徒主体の学校行事に向け改善を図る。 【数値指標】 評価項目 B 4 の生徒の肯定的回答が 90%以上→（結果）%	・生徒が達成感を得られるよう、計画的な準備と細かな点にも配慮された指導を心がける。 ・学校行事等において生徒の自主的な活動を促し、生徒の自尊感情の育成や他者理解を意図的に推進する。 ・「生徒の生徒による生徒のための」学校行事となるよう、教職員が共通理解を図り、生徒一人一人が主体的に活動できるような場を設定する。	B	【達成状況】 【次年度の方針】
	B 5 生徒は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。 【数値指標】 評価項目 B 5 の教職員の肯定的回答が 85%以上→（結果）%	・生徒会で企画運営を行う地域のクリーン活動を行い、ボランティア精神を育てる。 ・地域の行事のポスターを貼って紹介するなど P R 活動によって参加を促す。 ・ボランティア委員会でボランティアカードを作成し、意欲を高める。	B	【達成状況】 【次年度の方針】

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

7 学校関係者評価

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。